

自らの考えを広げ、深めることができる生徒の育成 -論理的な文章の比べ読み活動と解説活動を通して-



特別研修員 国語 高柳 健太郎 (高等学校教諭)

生徒の実態 ・受動的な学習姿勢になっている。 ・学習内容を基に、自身のものの見方・考え方を広げ、深めることに課題がある。	手立て1 【比べ読み活動】 教科書の文章と、サブテキストを関連付けて読む活動	成果 ・比べ読み活動により、試行錯誤が促進され、教科書の文章に対する解釈が深まった。また、解釈と自分の既有知識や経験を結び付けるなど、考えが広がった。 ・解説活動の中で、情報を精査しつつ、他者に伝えるために能動的に文章を読解し、試行錯誤していた。また、学習内容を統合して自らの言葉で表現していた。 ・学習内容を基に、現実の社会や自己の立場・在り方を見つめ直すなど、考えが深まった。
教師の願い ・試行錯誤しながら、能動的に学習してほしい。 ・学習内容と自分自身の既有知識や、実社会と結び付けてほしい。	手立て2 【解説活動】 文章と生徒自身の知識や経験を結び付けてポスター形式で表現する活動	課題 教科書の本文やサブテキストの読解に課題があった生徒は、十分な成果に結び付かなかった。段階的に読解を進める手立ての必要性を感じた。

単元名: 自らの考えを広げ、深めるために、文章を関連付けて読み、解説ポスターを作成しよう
 題材名: 「時間をめぐる衝突」内山 節 (『精選 現代の国語』明治書院)

導入

初読時の生徒の声 (読解に難しさを感じた点)

上野村という群馬県の小さな村から世界の問題へまで話が広がっていく点が疑問だった。

冒頭の「時間」に関する話から、最終的には戦争などといった話にまで発展しているところに難しさを感じた。

教科書の本文読解前の「グローバル化」

人・モノ・金・情報などが国境を越えて移動し、世界中の結びつきが深まること 世界の一体化	人やもの・文化が世界で共通になること。 世界の一体化	世界が一体化すること	人、物、文化などが国境を越えて世界と結びつくこと	世界が一体化し、協力できるようになること。
--	-------------------------------	------------	--------------------------	-----------------------

一面的ものの見方・考え方

手立て1【比べ読み活動】

「時間をめぐる衝突」と「文化と文明」の比べ読み

教科書の文章「時間をめぐる衝突」内山 節 (『精選 現代の国語』明治書院)

サブテキスト「文化と文明」高階 秀爾 (『上野の通信法』新書版 2006)

〈二つの文章で関連する要素〉

「村の時間」——「固有の文化」

「都市の時間」——「普遍的文明」

「グローバル化」——「均質化」

手立て2【解説活動】

「グローバル化」についての解説ポスター作成

※活動開始前に、以下の評価規準を明示した。

グローバル化について、

- ①本文とサブテキストの内容を理解して、表現しているか。
- ②既有知識を参照しながら、多面的に捉えているか。
- ③中学3年生が理解しやすい形式・表現で、解説しているか。

追究

本文とサブテキストを比べ読みし、共通点に焦点を当てながら、本文の難解な部分を説明できるようにしよう。

本文

サブテキスト

本文とサブテキストを比べ読みしてみても分かったことをノートにまとめている

本文とサブテキストの内容、私たちのもっている知識を統合して「グローバル化」を多面的に解説しよう。

☆「グローバル化」について

○本文から
p.133 L12 『グローバル化する市場経済とともに...』
→市場経済=グローバル化(地球規模で統合)するもの
p.135 L1 『多様な時間世界や、地域文化、記憶を消滅させること』=市場経済の拡大、管理しやむ世界システムの確立
⇒p.133 L7 『時間を支配しようとした人間たちが空に、市場経済に主導された時間のあり方に振り回されてしまう』→市場経済(都市型の時間)は「生産的な生き方」の象徴⇒時間の蓄積(村の時間)

○サブテキスト(文化と文明)から
文明(先進国)は「恩恵」という建前で、文化(途上国)に自分たちの制度や常識を広げていく。それが実際に、その文化圏での技術の進歩などの「恩恵」になることもあれば、積み上げてきたものを壊すだけの「侵略」になることもある。

※文明・都市と密接に結びついた安定した社会をつくる地域の枠を超えるもの文化...土地に根ざした過去から積み重ねられてきた地域社会独自のもの

「グローバル化」とは、市場経済の拡大によって技術の発達などのメリットがあるが、それと同時に戦争や紛争などが繰り返し起こってしまうというデメリットを持ち合わせているものである。

中3生が分かりやすいように、具体例を示しながら、「グローバル化」を多面的に解説しよう。

世界で一つの文明(国際法、多国籍企業とか)が国境を越え、広がっていく

👍 良いところ 👍

世界で共通のルールができる
国際協調
ex)国際連合などなど
様々な国と簡単に繋がることができる
→異国の技術の取り入れ、共同作業
→効率よい発展
ex)EUの飛行機づくり
インドとアメリカの協働

👎 悪いところ 👎

いろいろな文化・考えを持った人々がまとめられてしまう
自分たちの個性を見失ってしまう
地域固有の伝統・文化が衰退
ex)日本人の和食離れ、洋食化
抵抗から、争いが生まれることも...

「グローバル化」とは、世界の様々な地域の文化を均質化することである。世界全体で効率よい経済発展をもたらす一方で、異なる個性を持つ人々の間で、争いが生じる原因となることもある。

総括

生徒による総括

サブテキストの読解を踏まえて本文を読み直すと、村の時間という文化がもつ攻撃性やそれとつながるグローバル化による争いについて理解できた。今までよいところしか見ていなかった村の時間やグローバル化について多面的に捉え、視野を広げることができた。

考えの広がり

今回の単元を学習する前は、グローバル化は互いの多様性を認め合い、争いがなくなると思っていたが、効率的な発展をもたらす一方で、異なる文化同士の争いにつながってしまうと分かった。異なる文化を完全に一つにまとめることは不可能。どこで折り合うかが大切。

自己や社会との結び付け